

美郷を探索

秋田県立大学地域研修

6月27日に秋田県立大学の講義「秋田の歩き方入門」の一環として地域研修が美郷町にて行われました。

当日は、初めにワクスにて松田町長による美郷町についての講演が行われると、町内を移動しながら真乗寺の高柳信さんによる講話、六郷史談会の岩屋朝徳さんによる六郷の歴史についてのお話を聞き、その後チームに分かれて、六郷商店街周辺を散策しました。

最後には湧太郎内で美郷町について考えるワークショップが行われ、学生ならではの斬新な意見が飛び出すなど、真剣に美郷町の事を考えている様子を、参加した町内の人たちからも感謝の言葉が述べられました。



今年も盛り上がりました

航空自衛隊北部航空音楽隊コンサート

6月28日に今年で19回目となる自衛隊音楽コンサートが美郷町公民館にて開催されました。

今年もチケットは事前に全て発券され、公民館のホールが満席となるなど、このイベントへの期待の高さを感じられました。

コンサートでは最新ドラマの曲から伝統的な音楽まで幅広く演奏され、集まった412名の聴衆も素晴らしい音楽に酔いしれました。

1票の大切さを考える

選挙啓発出前講座

7月5日、美郷中学校の2年生を対象に選挙啓発出前講座が開催され、美郷町明るい選挙推進協議会と町選挙管理委員会が選挙の重要性について説明しました。

講座では、選挙制度を学んだ後に、美郷町明るい選挙推進協議会の皆さんを立会人とし、投票から開票まで生徒だけで行う「模擬投票」が実施されました。模擬投票のテーマは「選挙権年齢を15歳に引き下げること賛成か反対か」。賛成が43票、反対が110票となり、選挙権年齢が18歳に引き下げられることを受けて、選挙について真剣に向き合っていることが感じられました。



つながりを力に

第12回美郷町社会福祉大会

7月9日に美郷町公民館で第12回美郷町社会福祉大会が「つながりを力に～安心・安全な地域(まち)美郷をめざして」をテーマに行われ、地域住民や福祉関係者など約470名が参加しました。

福祉活動に貢献された方々に、鈴木会長より表彰状や感謝状が手渡されると、受賞者を代表して、高橋冬樹さんより「町民をはじめ、関係機関、福祉団体等が一体となり、明るく希望のみなざる福祉でまちづくりを推し進める事を祈念します」と謝辞が述べられました。

その後は 小玉進さんによる講演や、鏡元もとじさんによるアトラクションが催され、公民館のホールが満席となるほどの参加者で大いに盛り上がりしました。





秋田の元気を美郷から 美郷カレッジを開催

7月4日と、7月11日に宿泊交流館ワクアスにて美郷カレッジが開催されました。

7月4日は大原美術館理事長である大原謙一郎さんを講師に招き「倉敷を語り、日本と美郷を考える」をテーマに文化と芸術の持つ力の話や、大原美術館や倉敷でのさまざまな活動について講義していただきました。

7月11日は絵本作家の永田萌さんを講師として「ものがたりで読む日本のこころ」をテーマに、民話として語り継がれてきた物語から、古代からの日本人のこころの在り方について考えました。

両日ともに、基本講座の後に特別講座「夜なベトーク」が開催され、参加者たちは講師と直接触れ合いながら、知識と交流を深めていました。



▲永田萌さん
◀大原謙一郎さん



絵じやない餅をめざして

美郷町長 松田知己

風



千畑なかよし園で「若い世代との意見交換会」に参加する松田町長

7月は、国外においてはギリシャ債務問題が騒がれ、国内においては安保関連法案や新国立競技場問題などで揺れ動き、喧しさに比例して不安感が付きまとう月でした。加えて記録的な少雨。露地の畑作物などに影響がある由で、農家の方々にとっても不安で大変な月だったのではないかと思えます。

一方、私も行政はどうかと申しますと、これまた大変な月でした。今年的一大取り組み、地方創生関連事務にエンジン全

開が必要な月だったからです。その具体としてアンケート調査を実施しましたが、小学生以下のお子さんの保護者の方々、成人を迎える方々、高校三年生の方々には、お忙しい中ご協力をいただき、誠にありがとうございます。集計結果を受け止めながら、今後、施策の企画立案に汗を流していきたいと思えます。

さて、その地方創生ですが、要は地方の人口減少に歯止めをかけようというものです。そのため都市圏からの移住を進める、あるいは出生者数を増加させながら都市圏への転出に歯止めをかけていくのですが、その実現には移住者の働ける場が必要で、住環境も「選択される」魅力が求められます。また、出生者数を増加させるとともに

転出に歯止めをかけるためには、結婚問題に対処しながら産み育てやすい環境の充実が必要で、加えて子供たちに魅力ある安定的な働く場の確保も求められます。そして当然のことですが、そうした施策展開を一定期間支えられる予算の確保も求められます。

しかし、その予算確保の見通しが現在不透明と言われております。みなさんもご存知のとおり、国の財政が大変な状況だからです。そのため、地方の要望のようにはいかないのではないかとという危惧もあり、その結果、いくら検討しても企画通りに実施できない懸念もあるところで

絵に描いた餅にはしたくありませんので、頭の痛いところで。春日三球・照代の「地下鉄漫才」よろしく、それを考えると夜も眠れなくなっちゃいます。美郷版総合戦略策定委員会の皆さんのお知恵を借りながら、しっかり仕上げていきたいと思えます。タイムリミットは10月末。悩みは続きます…。